

2024年度

事業計画書

2024年1月1日から

2024年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

東日本大震災から12年を経て変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、相馬市・南相馬市を中心に福島県浜通りの子どもの心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市教育委員会・南相馬市教育委員会、NPO法人相馬フオロアーチーム、NPO法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市において継続的に支援を実施している。現在は南相馬市の小中学校にて活動を継続している。
- ・2024年度においても南相馬市から継続の要請を受けているため、支援を継続する。3月末まで継続、その後は南相馬市との協議により最終決定。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行う。

カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	6名体制、年間で24回（月2日×12ヶ月）実施。一部の学校は年間で48回実施（月4日×12ヶ月）
備考	【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO法人 星槎教育研究所、学校法人 国際学園 【実績】 ・2011年5月より継続実施 ・2015年3月までの相馬市内でのカウンセリング累計数は、生徒：750件、教員：355件、保護者62件 ・2023年3月までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、生徒：5,913件、教員：662件、保護者738件		

(2) スポーツ交流

- ・福島県相馬市において子どもたちを元気にするため、子どもサッカースクールおよびサッカー指導者講習会の開催についての要請を受け、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施している。
- ・世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）等の支援活動を行う。

スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
・子どもサッカー大会 ・サッカースクール	福島県相馬市	・小中学校の児童・生徒 ・青年等	2024年1月 13日～14日
備 考	【協働者（機関）】 相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学校法人国際学園 【実績】 2011年度より継続実施		

(3) 各地での災害等への支援

- これまで、国内外各地で発生した災害等に対し、緊急募金活動等を実施し、被災地の子どもたちや青少年のために活動する自治体・団体に寄付を行ってきた。今後も国内外で災害等が発生した際には、必要に応じこの活動を継続していく。

【近年の支援活動実績】

- 2023年2月 トルコ・シリア地震への緊急募金活動
- 2020年7月 豪雨による九州地方被害への緊急募金活動
- 2019年10月 沖縄 首里城焼失 再建のための募金活動
- 2019年10月 東北地方台風被害への緊急募金活動

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国を中心に支援を実施してきたが、2023年度より新規事業としてウガンダ共和国における子どもたちへの教育支援および現地小学校の環境整備支援を開始し、2024年度も引き続き実施する。エリトリア国、ブータン王国への支援については、現地の状況を考慮しながら既存および中断していたプログラムの見直し、整理を行っていく（ミャンマー連邦共和国での支援活動は2022年度で終了）。

2 支援事業の概要

- ウガンダ共和国、エリトリア国およびブータン王国において実施予定、または懸案となっているプログラムおよびその経緯は下記の通り。
- なお、留学生の受け入れについては「III 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業」に記載する。

(1) ウガンダ共和国

ウガンダ共和国オモロ県の現地小学校支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ウガンダ共和国オモロ県	KOMOREBI 小学校児童	協議により決定
支援内容	<p>2023年2月、ウガンダ共和国オモロ県にて日本のNPO法人(NPO法人五条クラブ)が創設した「KOMOREBI 小学校」が開校、小学校1、2年生の子どもたち86名が学校生活を開始。2023年7月、NPO法人と公益財団法人世界こども財団の協働向け協議を開始。9月に支援の現状と現地で必要とされる事案等を確認、検討の結果、本活動が世界こども財団の公益目的事業と合致、また実現の可能性が高いことを確認し、新規支援事業として取り組むことを決定。2023年11月駐日ウガンダ共和国大使と面会、協議の結果、本事業がウガンダ共和国政府公認(公式)となる。</p> <p>2023年12月20日-28日に現地訪問し視察、また現地自治体と五条クラブ、世界こども財団の3者で連携協定を締結(予定)。</p> <p>【中期計画(5カ年)】</p> <p>当財団の3つのビジョンにある「ゆっくり、されど着実に。先々の未来まで続く活動を」に基づき、一過性の支援ではなく継続的な支援と関わりを目指す。</p> <p>以下5カ年の支援内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該小学校に通う子どもたちのための「橋」の建設整備支援 ・当該小学校の教室増設支援 ・当該小学校のインターネットなどの学習環境整備 ・当該小学校の電気・上下水道・衛生設備などの環境整備 	
備考	<p>【協働者】 駐日ウガンダ共和国大使館およびウガンダ共和国政府、ウガンダ共和国オモロ県、NPO法人五条クラブ</p>	

【現地小学校支援内容】

(ア) 当該小学校に通う子どもたちのための「橋」の建設整備支援	
支援内容	<p>当該小学校に通うための通学路の整備が進んでいるが、特に地域で雨季になると道が水没してしまい通学が困難となる子どもたちのため、その箇所での橋の建設および整備を支援する。</p>
備考	2024年度中に建設予定。詳細日程などは後日決定

(イ) 当該小学校の教室増設支援	
支援内容	<p>ウガンダ共和国の小学校は7年制となっているが、現在「KOMOREBI 小学校」は2学年まで、2教室しかない状況である。今後、子どもたちの進級に合わせて毎年1学年ずつ増設をしていく計画であるため、この増設についても可能な限り支援を行う。</p>
備考	2024年度から支援活動開始。詳細日程などは後日決定

(ウ) 当該小学校のその他インフラ整備支援	
支援内容	通学路の橋の建設、教室増設支援に加え、その他以下のインフラ整備の支援を行う ・インターネットなど学校の学習環境整備 ・電気・上下水道・衛生設備などの環境整備
備考	詳細は後日決定

(エ) 国際交流支援	
支援内容	ウガンダ共和国「KOMOREBI 小学校」との国際交流プログラム、また将来的には留学生の招聘など、教育・文化的な支援や交流プログラムを継続的に実施していく。
備考	詳細は後日決定

(2) エリトリア国

エリトリア国においては下記が既存のプログラムとなっているが、2020年以降ペンディングとなっている。現地の状況も見つつ、2024年度については中止の決断も視野に入れつつ検討する。

①Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	Unicef 選定のモデル校 および周辺コミュニティ	後日決定
経緯	Unicef エリトリアが計画している現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め世界子ども財団との協働の要請を受けた。その後、2019年10月に第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始したものの、2020年、新型コロナウイルスの影響で現地Unicef 事務所が活動を停止して以来、ペンディングとなっている。	
備考	【協働者】Unicef エリトリア	

② スポーツアカデミーの運営支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	首都アスマラを中心とする青少年	要請或いは協議により決定
経緯	2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーの開設は、エリトリアの子どもたち、青少年に安全・安心な環境で教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技トラックの破損がひどくその修繕支援を2018年度に実施した。新型コロナウイルスの影響で2020年以降は具体的な支援に至っていない。	
備考	【協働者（機関）】エリトリア国文化スポーツ庁、同陸上競技連盟、駐日エリトリア国大使館	

③ エリトリアでのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やエリトリア国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。今後の方針については文化スポーツ庁および関係各所と協議の上検討する。	
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、駐日エリトリア国大使館	

④ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、同国初のパラリンピック大会出場を目指し、アスリート1名の支援を行ったが、同大会への参加は叶わなかった。今後については現地のニーズおよび状況に応じて検討する。	
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同パラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、駐日エリトリア国大使館	

(3) ブータン王国

ブータン王国においては下記が既存のプログラムとなっている。同国関係者とは引き続き非常に良好な関係を保っており、2024年度においては現地の状況に応じ渡航も含め検討していく。またブータン王国関連の事業においては主たる協働者である学校法人国際学園と綿密な連携を取り進める。

① スポーツスクールの運営支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	公立・私立選定協力校	後日決定
経緯	2019年10月、ブータンオリンピック委員会と同国教育省の共同プロジェクトチームより、ブータン王国にて開校予定のスポーツスクールへの運営支援、並びに日本国内公私立高校への視察・調査における協力及び支援の依頼があった。ブータン王国のスポーツスクール開設の主な目的は、アスリートが特定の競技に早期から取り組み、日常的に練習が可能となることによる国際競技力向上および安定維持である。 しかし、2020年度以降、新型コロナウイルス感染拡大とブータン王国の国内情勢の変化から、スポーツスクール開校延期と同プロジェクトの軌道修正を余儀なくされた。現在、スポーツスクールは、サッカー、アーチェリー、ボクシング、柔道、テコンドーと対象競技を限定して進めることになった。今後の方針については、同国オリンピック委員会および関係各所と協議の上検討する。	
備考	【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、同オリンピック委員会、学校法人 国際学園	

② ブータン王国でのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国アスリートおよび関係者	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やブータン王国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。また、2021年度には東京オリンピック競技大会においてブータン代表チームの事前キャンプおよび大会参加支援を実施した。今後の方針については、同国オリンピック委員会および関係各所と協議の上検討する。	
備考	【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園	

③ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国において身体および知的障がいを持つアスリート	要請或いは協議により決定
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、パラリンピック委員会の設立、アスリート育成、福祉車両の寄贈等の環境整備、事前キャンプ受け入れ等の支援を継続してきた。パラアスリート3名がブータン王国史上初のパラリンピック大会出場を果たし、東京大会が無事に終了したことから、今後の支援については現地のニーズを把握した上で検討する。	
備考	【協働者（機関）】 ブータンパラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人国際学園	

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、アフリカ・アジア各国との国際相互理解促進を図るため、各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。また、JICA 横浜と連携した研修生受け入れ事業、および国際理解促進のための教育機関における授業プログラム等も実施する。

2 支援事業の概要

(1) マリ共和国留学生（高校生）の受け入れ

- ・ マリ共和国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・マリ両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2023年度に、マリ共和国からの高校留学生（バスケットボール競技男子1名）の受け入れを開

始した。世界こども財団は、同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、そして、受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当している。

- ・ 2024年度は、同留学生が高校在籍中であるため、継続して支援を実施する。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	マリ共和国	(継続) 高校生1名	・2023年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南 【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、駐日マリ共和国大使館		

(2) エリトリア国留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ エリトリア国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生在がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2017年度に事業を開始し、これまで同国より高校・大学留学生計12名の受け入れを実施した。世界こども財団は同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、また受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当。
- ・ 現在、星槎道都大学陸上部にエリトリア大学生2名が在籍。在籍生徒については2024年度も継続して支援していく。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	エリトリア国	(継続) 大学生2名	・2017年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学 【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および陸上競技連盟、 駐日エリトリア国大使館、学校法人 北海道星槎学園、学校法人 国際学園		

(3) ブータン王国留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ ブータン王国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。一方、留学生在がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2018年度より受け入れを開始し、これまでアーチェリー、陸上競技、柔道において高校生・大学生計6名を受け入れた。世界こども財団は同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、また受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当。
- ・ 2023年度は、在籍していた大学生3名が卒業、帰国した。新規の留学生受け入れを、高校生（特にアーチェリー競技選手を想定）を対象に提案したが、現地での選考が進まなかったため、2024年度においても引き続き検討、交渉を行う。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	ブータン王国	(新規) 高校生 2 名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018 年より継続 ・ 新規受け入れは後日決定
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際湘南 【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会および競技連盟、学校法人 国際学園、公益社団法人全日本アーチェリー連盟		

(4) その他 海外からの留学生受け入れ

- ・ これまで前述の各国よりスポーツ留学生の受け入れを実施してきたが、国際交流イベント等を通じて、他国からも同様の支援への要望が寄せられている。当財団の活動目的を十分に理解し協力する送り出し団体があること、また将来有望でありスポーツだけでなく勉学にも励むことができる候補者がいることを前提に、受け入れについては随時検討する。

(5) 国際理解促進のための教育機関での出張授業プログラム

- ・ 2022 年度より、世界こども財団職員を高校に定期的に派遣し、国際理解教育を支援する取り組みを「出張授業」として開始した。
- ・ 本取り組みでは、まずは学校法人国際学園の 3 校舎（星槎国際高等学校八王子学習センター、同立川学習センター、同横浜鴨居学習センター）において、ブータン王国のプログラムを担当する職員により、ブータンを探究テーマとして文化・歴史・共生について学んだ。特に食文化に着目して生徒が主体となってキッチンカーを運営するゼミ等を実施した。また、生徒の国際貢献を促すべく、生徒会と連携しての募金活動や、不要品回収の活動等を実施した。
- ・ 2023 年度は、エリトリアから当財団のプログラムで留学し、大学卒業後世界こども財団にて勤務している職員が星槎国際高等学校（八王子学習センター、横浜鴨居学習センター、立川学習センター）を定期巡回したほか、夏期休暇中も特別企画を担当するなど、エリトリア、およびアフリカと日本の文化、またスポーツの要素も取り入れて授業を実施した。
- ・ 現在のプログラムは 2024 年 3 月まで継続し、以降については学校側のニーズを踏まえ、継続していく予定。

出張授業プログラムの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
出張授業	国内	生徒および学校関係者	2022 年度より継続
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

(6) JICA 横浜との協働による日系社会研修受け入れの実施

- ・ JICA 横浜が推進している日系社会研修（主に南米の日本にルーツを持つ青年の日本での研修事業）に当財団のプログラム案が採択されたため、協働し研修生の短期受け入れを実施する。
- ・ 研修のテーマは「共感理解教育と日本文化」とし、星槎グループのネットワークを活用して各教育機関での研修を実施するほか、日本文化を体感できるプログラムを盛り込み、初回は2023年1月に1ヶ月間の日程でブラジル連邦共和国より1名を受け入れた。
- ・ 同プログラムで再度、採択を受けたため、2024年1月に同プログラムを実施予定。ブラジル連邦共和国より研修生1名を受け入れる。

日系社会研修受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
日系社会研修	中南米における日系社会	研修参加者	2024年1月15日 ～2月15日
備 考	【協働者（機関）】 独立行政法人国際協力機構（JICA）横浜、一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたちや青少年の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア国出身職員の自立支援プログラム

- ・ 当財団のスポーツ奨学生（陸上競技）プログラムで日本に留学し、大学を卒業したエリトリア国出身者1名を職員として雇用し、当該職員が引き続き日本で活動、自立して社会人としての生活を送れるよう支援するとともに、当該職員を主体としたプログラムを実施した。
- ・ 本プログラムは単に外国籍の職員を雇用し直接支援することではなく、日本で学んだ留学生在が社会に出て、広く母国およびアフリカの文化を紹介すること、さらにその留学生在が次の世代の子どもたちや青少年を育てていくことにより、支援と関わりあいの循環を生むことにある。
- ・ 2023年度は「Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業」に記載した出張授業プログラムの実施に加え、各地イベントにおけるエリトリア国の食文化紹介（カレー提供）、留学生を含む高校生および大学生への陸上競技指導、留学生への日本語指導を当該職員の主担業務として実施した。
- ・ 出張授業等の学校でのプログラムについては2024年3月まで継続し、2024年4月以降も学校側のニーズを踏まえ継続する。また各種イベントへの参加も継続して行う。

エリトリア国出身職員に関連する支援事業

支援対象地区	支援対象者	日程等
エリトリア国および日本国内	エリトリア国出身職員および留学生を含むプログラム参加者	通年
支援内容	当該職員による下記プログラムのコーディネート ・ 高等学校における出張授業 ・ 高等学校、大学における陸上競技指導 ・ 高等学校における留学生への日本語指導 ・ 「大磯市」、各学校の文化祭における食文化紹介	
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園	

(2) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院への支援事業

- 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めてきた。職業訓練をすすめる、当該工場での就業機会提供、孤児院自立運営に寄与することを目的として、世界こども財団は両者の窓口として継続的に取り組み、工場の建設含め準備は完了していたものの、2020年度から2021年度にかけ、バングラデシュの縫製業組合からのライセンス発行等の遅れ、さらに新型コロナウイルスによるロックダウンなどが追い打ちとなり、三者での協議の結果、現地法人におけるビジネスとしての縫製業の継続は困難と判断した。
- 今後については、現地法人の閉鎖業務が終了していないため、引き続き株式会社矢部プロカッティングとアグラサーラ孤児院間の連携窓口としてサポートを行う。併せて、これまでに設立した施設等を活用して現地で可能な支援プログラムを実施するべく、引き続き協議を行う。

アグラサーラ孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
孤児院運営支援 交流事業	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	後日決定
備考	【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園		

(3) その他各国への支援

- 2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で困難を抱えながらも草の根の活動を続けるアフリカの団体や学校等を支援し、南アフリカ共和国、マラウィ共和国、ブルキナファソ、サントメ・プリンシペ民主共和国、ガンビア共和国において寄付を行い、その活動を支援した。
- 2024年度以降も状況に応じ、これまで培ったネットワークを継続し、協働者とともに現地のニーズに合った草の根の支援活動を実施する。

各国支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
各国の草の根活動支援	アフリカ、アジアの各国	学校、病院、現地支援団体および関係する子どもたち等	随時、協議の上決定